東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009 年 10 月 16 日

聖預言者の妻たちへの相談。

親愛なるムスリムの皆様。疑いの余地なく、人間は社会的な存在です。社会的な存在である上、様々な感情や思想を持ち、そして様々なことに関して意見を持つ存在です。それと共にその考えや意見などを大切にしてもらうことも望んでいます。人生をお互いに分かち合いながらいろいろな苦労や悲しさに対して一緒に立ち向かっている配偶者達にとっては相談しあうことは当然より大切なことです。そのために配偶者達にとって常にお互いの意見を聞くことそして相談し合うことが不可避です。お互いの意見を分かち合うことと相談し合うことのもう一つの意味は、いろいろな花やハチの巣から蜂蜜を作れるということです。

兄弟や姉妹の皆様。模範であり、そして完璧なお方である愛する預言者ムハンマド（彼に平安あれ）は、その妻達と様々なことにおいて時々相談し、彼女たちの意見や考えなどを重要視しました。したがって我々の預言者の生き方や行動に即さない意味を持つ、「妻達と相談することを薦めますが、彼女らが出した意見の逆の行動をとるべきである」と彼が言ったという伝承の真偽について我々は当然考えるべきです。ハディース学においてこの伝承が真正ではなく信頼されない言葉とされており、さらに主要なハディース集にもこの伝承は見られません。

大切な兄弟姉妹の皆様。愛する聖預言者が最初の啓示を受けた際、その折の苦しい状態について聖ハディージャと相談したことを私たちは知っています。彼女は夫を慰め、勇気づけたのです。それから彼女は最終的な解決方法を教えてくれると考えた、叔父ワラカ・イブン・ナウファルの許につれて行きました。[1]

また次の伝承はこのテーマに関してもっと注意すべき例です。預言者ムハンマドは（彼に平安あれ）フダイビヤ和約が締結された後、教友達に犠牲をほふることと髪をそることを命令しました。しかし彼らは和約の条項についてムスリムにとって不利な条件で講和したことを不満に思い、その命令を実行することを望みませんでした。もう一度命令してもその結果は変わりませんでした。この様子に大変悲しまれた愛する預言者様は、妻であるウンム・セレメのテントへ行ってその状態を語りました。ウンム・セレメは「アッラーの使徒よ、あなたは自らの犠牲を屠り、髪をそって下さい、そうすれば彼らは皆あなたを従います。」と推薦します。彼は薦められた通りに行いました。そのことを見た教友達は、それまで続けた感情的な行動を止め、アッラーの使徒の命令を実施しました。[2]

預言者ムハンマド（彼に平安あれ）は、その妻でありかつ我々の母である聖アーイシャについてなされた中傷に対して執るべき態度に関して教友達と相談すると共に他の妻であるザイナブ・ビント・ジャフシュとも相談しました。[3]

預言者ムハンマド（彼に平安あれ）のこうした振る舞いは、妻達をどれほど大事にされたかということを現在の人にもう一度思い出させています。実は預言者ムハンマドにとっては（彼に平安あれ）彼女達と他の人々の考えや意見などはまったく必要ではありませんでした。なぜなら彼は常に啓示に支えられていたからです。しかし彼は信者達へそして彼らを通し全人類へいろいろなことを教えることを望んだのです。

我々はアッラーの使徒を理解し、彼の生活基準を実際の生活において実行することをどれほど必要としていることでしょう。聖預言者の上に祝福と平安がありますように。

---

[1] イブン・ヒシャーム、『預言者伝』; İbn Hişam, es-Siretün-Nebeviyye.

[2] ワーキディ、『マガーズイーの書』;Waqidî, Kitabu'l-Maghâzî.

[3] ムスリム、テウバ、, 6673;Muslim, Taubah, 6673.